

令和3年度小谷村ケーブルテレビ放送番組審議会議事録

日時	令和3年6月17日(木)16:00~17:00	場所	小谷村役場 204 会議室	記録者	上川(由)
出席者	<p>【委員】7名 上川喜一、今井頌治（代理・松澤聡志）、中村恭之、北村和則、花岡理香、萩原慶一郎、北村順二</p> <p>【事務局】3名 賣場崇大、諏訪匠、上川由香里</p>				
No	内容				
1	開会				
2	自己紹介				
3	<p>会長選任</p> <p>上川喜一氏を会長に選出。</p>				
4	<p>協議事項</p> <p>(1)放送番組審議会規則について</p> <p>事務局より、資料1に基づいて説明がなされた。</p> <p>(2)加入者数</p> <p>事務局より、加入者数について下記の通り説明がなされた。</p> <p>令和3年4月1日時点 1,135 世帯（前年2月末対比△112）</p> <p>減少理由として、民間移行の手続きに伴いテレビ契約が不要な方や料金支払いの認識がなかった方が精査されたこと、同意書・申込書未提出の方も若干名いることが挙げられた。</p> <p>(3)ケーブルテレビ番組の概要説明</p> <p>事務局より、資料2に基づいてこれまでの経過や問題点、改善案について説明がなされた。</p> <p>また、今後の番組企画・演出の方針となる理念として『小谷村ケーブルテレビは、村民主体の番組を制作・放送することによって、村民相互の理解を促進し、村の一体感の向上を目指す』が示され、番組企画の素案が提示された。</p> <p>(4)意見交換</p> <p>ケーブルテレビや放送番組の現状や今後に対する意見交換がなされた。</p> <p>【委員からの意見等】</p> <p>委員) 子どもや孫が出ている番組は見るが、議会や自分たちより上の年代が出演している番組はあまり見ない。視聴者の年代によって視聴する番組は違ってくるところはあるだろう。</p> <p>事務局) 放送枠によって対象年齢層を分けながら編成する必要性を感じている。</p> <p>委員) 視聴率の確認方法やモニター制度はあるのか？</p> <p>事務局) 現在の設備では視聴率の確認は行えない。過去、紙媒体でアンケートを実施したが回答者は限られた。モニター制度も設けていない。今後は Web アンケートの実施やモニター募集など視聴者の声を取り入れる方法を検討していきたい。</p> <p>委員) ケーブルテレビの視聴有無だけでなく村の取り組みやお互いに対する興味の低さ、熱量の</p>				

低さを村民全体に感じている。村民が村やお互いに対して興味を持ち、繋がりをあえるように、行政や観光連盟なども含めて「小谷村が好きだ、この村をよくしよう」という気持ちの中で番組制作や発信ができるとういのではないか。

委員) 小谷村の子どもたちには表現力や IT 意識の向上が必要だと感じている。また、10~20年後に村や学校がどのような状態になっているかを杞憂している。受け入れ態勢の整備など課題はあると思うが、村の知名度向上や人口増加に繋がるよう、子育て環境や教育の充実、観光面での魅力などを県内外に向けてアピールできるとよい。

事務局) 子どもたちの表現力向上については、生徒会活動や部活動の紹介などで番組出演の機会が増加してきているが、更に発展させて子どもたちが主体的に参加できる番組制作にも取り組んでいきたい。

委員) 自分の子どもが出ている番組は視聴する。近隣住民との話題にもなる。

文字放送は放映時間が長い時や必要とする情報がない時は視聴しないと思われるが、番組制作にかかるコストはどのようになっているのか。文字放送の放映時間にスポンサーCMの放映も加えてはどうか。

事務局) 現状、民放のようにスポンサーから費用を調達して番組制作する流れがない。良い番組を作るためにはどうしても制作費用や人員増が必要となり、最小限のコストで実現できるよう企業努力を重ねていくが、現行のスタッフ稼働にも限りがある。役場への協力要請やスポンサーCM制作案件獲得など徐々に収益構造の見直しを図っていきたい。

また、文字放送の扱いも含め、現在の放送内容を抜本的に改革したいという考えもある。公設民営であるため行政とも意見を擦り合わせながら進めていきたい。

委員) 公民館では、コロナ禍でヨガやストレッチなど家庭内で行える運動紹介などでケーブルテレビを活用していたが、一方的な講習形式ではなく様々な村民に出演してもらい「あの人が出ているから見よう」となるよう工夫をしていた。頻りに村民が出演する番組作りを心掛けてもらいたい。例えば、村民からの持込企画を受け付けてはどうか。ペットの紹介、生活の知恵や商売の工夫のシェアなど、様々な意見が出てくると思われる。

企業CMや協賛募集はよいアイデアだと思う。

委員) 費用をかけて作りこむCMでなくとも、繋がりを作るきっかけとして村民や企業に広く活用してほしい。また、実現した際には番組内で場面が切り替わるタイミングに差し込むなど視聴してもらえそうな工夫をしてほしい。

委員) 民放の月9のように、定例的に放送される看板番組が必要ではないか。

事務局) 看板番組、定番番組の必要性は感じている。これまでは公設ということで控えていたであろうバラエティ色の強い番組も検討している。

委員) やはり子どもが出ていると視聴する時間も増えると思っている。

予告番組の制作や朝の音声告知放送で本日の番組案内を流すなど、放送番組の事前告知が欲しい。また、放送する曜日・時間帯でテーマ(学校、スポーツなど)が決まっていると視聴しやすいのではないか。

村内だけでなく村外・県外など外向けの発信も必要だと考えているため、YouTubeによる発信はぜひ取り組んでもらいたい。

事務局) YouTubeでは、小谷にハマってほしいという意味を込め、方言を用いたチャンネル名「おたりがぶった ch」を開設し、観光や商業施設の紹介など村外向けの映像発信を行っていく。併せて、SNSの活用も検討している。また、日本ケーブルテレビ連盟に加盟したため、県内・県外のケーブルテレビ事業者との情報交換・ソース交換も行っていきたい。小谷村の魅力を積極的に発信することで、移住促進など人口減少の歯止めとなるきっかけにもなっていくと考えている。地元のメディアポータルとしての使命感を持って取り組んでいきたい。

委員) ケーブルテレビを積極的に視聴する機会はほとんどなく、動画配信サイトを選ぶことが多い。子どももいないため、視聴のきっかけもない。たまに視聴した際には番組演出の盛り上がりが少ないと感じる。コストの関係もあると思うが、エフェクトを増やすなど盛り上がる演出が増えれば、視聴者数や視聴時間が増えるのではないかと。ペットや野生生物など、動物を扱う番組は興味を持つ方が多いと思う。

5 その他

(1) 今後について

事務局より、番組内容や編成のリニューアル準備を進めており、9月に放送開始予定であると報告がなされた。

6 閉会

特記事項

次回開催は、9月リニューアルの様子を踏まえ、10月実施予定となった。